

ふなつせいさく

たいはく

# 船津静作ゆかりの桜「太白」

(英名…グレイト・ホワイト・チェリー)

船津静作は川口市里の船津家(日光御成道鳩ヶ谷宿本陣船戸家の最も大きな分家)の七代目、舟戸徳助の次男として、安政五年(一八五八)に鳩ヶ谷で生れ、長じて、足立区江北の船津家(鳩ヶ谷宿本陣分家の一つ)を継いだ。

船津静作は、明治四十五年、当時の東京市長尾崎行雄(尾崎罌堂)がアメリカ・ワシントンに荒川堤の里桜の苗木を贈ることになったときに、苗木の選定採取に中心的役割を果たした。このときアメリカに贈られた約三千本の苗木はワシントンのポトマック河の畔をはじめ何カ所かに分けて植樹されたが、ポトマック河の畔に植えられた桜は、ワシントンの桜として、毎年桜の時期にはみごとな花を咲かせている。ちなみにこの時の桜で一番本数の多いのは、芝中でもたくさん植えられるソメイヨシノである。

大正一五年(一八二六)、イギリスの、著名な桜の収集家でもある園芸家、コリングウッド・イングラムが船津静作を訪ねたときに、「太白」について話題が及び、船津静作が日本ではほとんど絶えてしまったと言うと、イングラムが、以前に日本から贈られた太白を株分けしようとして伝えた。桜がおくられてきたのは、それから7年後。桜の苗木が送られてきたときには、船津静作はこの世にはいなかった。

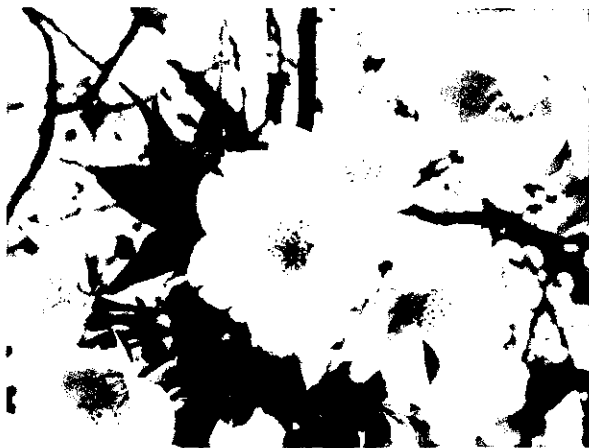
イングラムから送られてきた「太白」の苗木は、京都の園芸家、佐野藤右衛門に引き取られた。その後、佐野藤右衛門は希望に応じて各地に「太白」の苗木を送ることになった。

「太白」は現在、都内では新宿御苑や小金井公園、小石川植物園などで見ることができる。今回、川口市立芝中学校及び川口市立芝南小学校に植樹される、「太白」は、「公益財団法人日本花の会」結城農場で育てられた「太白」である。この桜の苗木は、東京都足立区の桜研究家、樋口恵一氏のご協力により提供された苗木である。

ほぼ百年前の船津静作とコリングウッド・イングラムの縁に繋がる、芝中学校及び芝南小学校に植樹された、「太白」が見事な花を咲かせてくれることを願うものである。(文責 伊澤隆男)



晩年の船津静作翁



太白